

独立独歩の高二」。以上。

年を圧倒した。高2、高1

獲得するなど、

百花繚乱の中一

組んだ様子がうかがえた。

高校は、高3が最優秀賞を

結構演劇は張り切って

聞かせてくれるだろう。

も来年は素晴らしい合唱を

味を問われはじめている。

やるならやるで、

り下がりを見せ、存在の意



が警報でつぶれたが、余り であろう。準備期間の一日 位前から計画を練ったから ついた。文企を中心に一年 影響しなかったようだ。 【演劇】 今年の演劇

【合唱】

見事最優秀賞を受賞して、

のだ。 しい演劇を見せてほしいも を改善して、来年も素晴ら いる。観客のマナーの悪さ

中学の合唱は、中3Bが

の21日から23日にかけ、第39回文化祭が行われた。 昨年よりも積極さが目に になった。その模様を局員がレポートした。 め、3期生徒会の総力で、過去になく楽しい文化祭 今回は"ちょっと奇"をテーマに早くから準備を推 厳しかった暑さもそろそろ終わりかけてきた9月

行

洛星新聞局

印刷/油片桐軽印刷

局空回りに終わってしまっ 優秀賞がないという異例の でもコンクールを降り、 たような感がする。やはり に伸びず、皆積極的に努力 ものだった。客足は全体的 したのにもかかわらず、 生物部に続き、地理部ま

【模擬店】 今年も例年通り22・23両

一もめげず、活気があった。 販売側は、昨年の不祥事に 日に中・高中庭で行われた。 少ないように思った。一方 気のせいか去年より客数が

かもしれない。 が気になるところだ。 ての各クラブ、学年の動き

様の準備期間中の警報にも たものといえる。昨年と同 まいという姿勢を明確にし 統に、いたずらにとらわれ スローガンは、昔からの伝

向性を求め生徒一丸となっ めげず、文化祭の新しい方 念講演の復活 た積極的な記

加という成果 学年の演劇参 HⅢを除く全

にし、過去の食券制度に戻

日目と三日目の食券を別々

第39回

券販売の係に払い戻しを哀 願する人の姿も目立った。 したため、混乱を招き、食 【小講堂フェスティバル】

言で傾向を言い表せない。

賞を決め、今後も期待され

る。中1は、まじめに取り

また、中2は3クラスが入 最高学年らしさを見せた。

もっと | VTRしかないのか。それ の時期にきているのではな 年を前にした宿題が解決し 成果を示す手段は、展示や いだろうか。クラブ活動の られてはいないが、もうそ 枠は、まだあまり手をつけ も事実である。文化祭の大 きれずに残ってしまったの をもたらした。しかし40周

【展示】

頑張ってほしかった。

がまだ主流であるこの分野 には、構造的限界があるの パネルを見せるだけ。型 【その他】 オケ部コンサ

続いての『ちょっと奇』 昨年のテーマ "転生" 0

来年もがんばってほしい。 構楽しめた。その他は大体 りジョークも入っていて結 講演も分かりやすく、時折 例年通りであったと思う。 なり変』な40周年記念祭を 期待したい。

また今年復活した玉木氏の かなからまかったと思う。 初めてのぞいた室内楽もな わらず人気があった。今年

が同じ歌を歌うことはいか た。来年はこの積極さにもっ 投じたといえる。 と各人の独自性を加えた、かか 消極的無責任の世の中で、

がなものか。M3Bの「北 積極さがめだったものだっ 酒場」はこの問題に一石を 第3回洛星中高文化祭は

賞をとるべく多くのクラス は各々違うはずだ。合唱で

を通じて財日本ユニセフ協 があり、全額を奥本理事長 さまで一〇八九冊、八一八 七〇円の売上(寄付を含む) 心からお礼申し上げます。 化祭での古本市はおかげ 宗研ボランティア主催の 古本市」 売上報告 、寄付いたしました。 協力を下さった方々に

藤田先生(英語)まで

体育祭成績表

校 A767点 優勝 B 780点 優勝 B740点 2位 A 669点 2位 D634点 3位 F 725点 3位 4位 C 632点 C 683点 4位 E 580点 5位 応援 D 570点 優勝 E 6位

Eクラスだった。 学の優勝はBクラス、高校 お腹もすっかり治った。 はAクラス、応援の優勝は 式が行われた。本紙記者の 中

足が原因なのだろうか。 たとか。昨年に続く題材不 始まってしまっていた。 校生徒が元気よく歩いた、 号の影響で10月2日に行わ ところによるとつまらなかっ られなかったのだが、 と下痢に苦しみ、 もと、力強い応援が続けら もう我が学年の学年競技は 校したのだ。着いた時には 本紙記者Kはこの日、 と思う。というのも、 という訳で応援合戦も見 競技中は、強い陽ざしの まず最初は入場行進。 それを受けた生徒達が 10時頃登 校し、 たが)、素晴らしい力走、激 優勝などということもあり 特にプログラム最後のリレー している) もあった。 また、飛び入りで先生チー もう無理なクラスもあっ が参加する、というハプ ング(その割には定着化 いデッドヒートが目につ 得点配分も高く、(逆転)

文化祭表彰

中学最優秀賞

高校最優秀賞

演

展

学年部門優秀賞

クラブ部門優秀賞

優良賞

グランプリ

中学アカデミー賞

唱

3 B

ΠE

劇

亦

M 2

HI

 Π

M2 part II

高校歷史 研究会

保健部

天文部

今年の体育祭は、台風20

熱戦をくりひろげていた。

手に熱い声援を送っていた。 んどがお母さん)も多数来 そして、興奮した雰囲気 また、父兄の方々(ほと ムは無事終了し、 カメラやビデオを片 あっという間にプロ

もっと自由に楽しくできな 年に一度の行事なのだから るが、さらに盛大な体育祭 ぎた結果、本当に楽しめな が、形式や勝負を重んじ過 きないという規則があった 装のままでは競技に参加で ついても言えるのだが、一 を期待しようと思う。 なかろうか。 いものになっているのでは なりかけている。文化祭に と、体育祭が体育競技会に いものだろうか。応援の衣 体育祭役員の皆様、御苦 来年は創立40周年にあた

感想を述べさせてもらう

勧める訳ではないけど終わっ おっしゃってられたなあ。

てみると結構楽しかったで

今回は13期卒業生で、大

水島

き勝手に主張する訳で、

例

私がカトリックの教育修

るのではなく、

京都に来た

を得ることが出来ました。

当時校長だったアラー

父様は、

一九六四年から副

0

校長の二人制を主張され、

小野務副校長は教務と事務

0 0

児直しが検討されるよう 生徒会や、その他の面で 政は洛星にも及び、洛星 のようになりました。

こ か大学生を中心に検討さ

宗教と宗教行事を行い、

関係で校長を補佐し、

私は 校

なり、若いエネルギーに

えた生徒遠と取り組みま

を得ることが出来ました。

第二次世界大戦後、人生

運ばれ、一八三四年に認許

教皇庁まで何回となく足を

らず、リヨン市からローマ

時の交通の不便にもかかわ 道会を設立されました。当 た教育方針を持って教育修

た。私の小冊子『希望』

阪地方裁判所の水島和男さ んを訪ねました。

「1期生らが大変苦労して 入った当時は先生方から 13期生の頃の学風は。

今日の洛星を作ったんだ」 5 で決めました。

というような話を聞かされ

も受験校というイメージは 言を言われていました。で されて、「お前達は…」と小 先輩の人たちといつも比較 自由に過ごさ ものは。 ルチャーショックのような なってからはなかったけ 裁判官になられてのカ

が手錠をかけられていたの 点などはありますか。 にはショックでしたね。 れど、修習生の頃に被疑者 裁判をされていて困る

卒業後20年たったというこ せてもらいました。この前 全然なくて、

学年と21期が元気だったと 生を吊るし上げたりしまし 生大会を開いて小講堂で先 問題だったと思うけど、学 Ⅱの頃に、確かあれは寮の ご多分にもれず洛星でも高 頃は、学生紛争が盛んでね。 おられたんですけど、あの とで修善寺で記念会やった てね。藤田衍先生は僕らの ときに先生方もおっしゃって 大体まとまりますね。どう 件の場合、判決は3人の裁 してもだめなときは多数決 合もとことん討議するから 意見を強制されることもな 主張できるし、裁判長から けど、自分の意見は自由に 判官が合議して決めるんだ いですし、意見が割れた場 特にないですね。合議事

それよりむしろ訴訟指揮と 思いますね。 判決にもっていくんだけど、 てくれないと残念だなあと そのときに相手がこれに乗っ 風にやって下さいといって いって、当事者にこういう にしますが極めてまれです。 逆にうれしいことは。

機は。

今の仕事につかれた動

洛星にいた頃には今の仕

なかったです。理系には始 事に就くような動機は一切

それからやっと、うからな 司法試験も友達から誘われ めから行かないと決めてい アカンと思いまして、受かっ 法学部を受けたんですよ。 すけどその道を究める自信 て勉強して受けたら落ちて、 もなかったからとりあえず 歴史が好きだったんで 民事でも双方が納得し がそれなりに納得して 合はうれしいですね。 面目になろうと決意し だけど、それで被告人 たのが分かった時はよ てるのが感じられた場 くれて、これを機に真 れと迷って判決するん 刑事なら、 あれこ われた何社の元常務取締役、 を渡したとして商法違反に問 元常務らに有罪判決 日本合成化学工業の 総合化学材料メーカー「日

商法違反で大阪地戯

(2)

たのは7回生のとき、

第135号

までは毎年わざと単位を1 科目残して留年してました。 岡山での実務修習中には、 晴れて司法修習生になって が任官するものと勝手に思 大阪で弁護士になろうと思っ 京の後期修習に行ったんで い込まれて白紙になってし すけど、向こうの方で自分 て事務所まで決めてたんで そうしたら検察と裁判 そのまま東 るのですか。 かったと思います。 手持ちの事件が9件強。(ゲッ 今は単独事件が週3回で、 法廷にはどの位立たれ

両方できるという点かな。 後は郷里に帰る新幹線の中 官の両方から誘われて、 裁判官は民事と刑事の 理由という 最 昔は週3回で30件という時 多いの声)少ない方ですよ。 けられる点は。 もあったということですし、 れと公正らしさということ 今も民事はそんなものです。 やっぱり適正・迅速、そ 裁判の際に特に気をつ

まいましてね。

つまらないミスをしないこ 然のことですが細心の注意 とです。特に刑事の場合は、 それから細かい点ではまず 思われるとまずいですし。 ですね。自分では公正と思っ を払いますね。 令に違反がないかなど、 を超えていないかとか、 ても外から見ておかしいと 刑が法律に定められた範囲 当 法

2件、午後は3~4件位多 時から4時半まで。 で動く時もありますね。 もっとすごくて、5分刻み に3時頃休みます。午前中 まって12時まで、午後は1 い時は開廷します。 位座っておられるんですか。 午前中は大体10時から始 民事と刑事ではどちら 1回の法廷では何時間 その間 民事は

察で、 ど面白さという点では民事 がいいですか。 の点民事は両方それぞれ好 かどうかだけですから。そ ですね。刑事では原告が検 落ち着いているし、本格的 ないので肉体的には楽だけ に争われる事件もそう多く 今のところ刑事は件数も 罪を立証できている

日、大阪地裁であった。水島 (求刑懲役六月)、松尾、吉二二十五万円を被していた。 為は反社会的」と述べ、宮川 和男裁判官は一総会既に裏金 (大o)に対する判決公判が三 被告に懲役六月執行猶予三年 工作までして利益を図った行 元絲粉部鰥長、吉田敏行被告 薬室長、松尾末万被告○夏> の有罪判決を召い渡した。 六月二十九日に同社の株主統 どと依頼、総会の前後に計百 な進行に協力してほしい」 の総会屋に対し「競事の円滑 会が開かれるにあたって四人 **教行猶予二年(求刑同四月)** 判決によると、三人は昨年

和男さん 13期生 運命を預かる訳ですから、 告の双方がそれぞれ立証し 別の生の主張を法律に従っ あります。そういう千差万 みてもいろいろなケースが えば売買契約なんかとって を使う面白さがありますね。 する(証訟指揮)ような頭 これに従って立証活動して もらうように当時者を指導 しかしどちらにしても人の ないといけない事を決めて て交通整理をし、原告・被

ありますか。 今の裁判官には出世は その面でやりがいはありま

なことで裁判の公正さが損 れないけど、それと裁判の なわれることは絶対にない 公正とは無関係です。 考えている人もいるかもし います。その中には出世を と思います。 大阪には50人位裁判官が そん

する不満があれば。 今の裁判システムに対

こいらかかることもありま ですが簡単な事件で1年そ りすぎるということですね。 今でも改革を進めているん 民事の場合に時間がかか

最後に洛星の生徒に一

がとうございました。 今は男女交際がどうなって 非法曹の道を志して下さい。 にかくしっかりやって下さ ら正しい交際ができる位に 自分もこの点で苦労したか にね。男ばっかりでしょ。 んだから、できるだけ自由 はなっておいた方が…。 い。それから言い忘れてま いるのか知らないけれど、 高校生活は1度しかない 本日はお忙しい中あり 後輩の皆さんも是 5

宮川清和被告(3人)元関係事 | 田両被告にいずれも懲役四月 産経新聞より」 初日) 校に通い、 七人が生徒の家に 等を見学した後で男子生徒 ステイしながら二週間程学 ク高校の国際交流の一環と 校の二年生18人がカトリッ して我が校を訪れ、文化祭 フランシスコ・ザビエル高 去る9月21日に(文化祭 オーストラリアの聖 交流を深めた。

生徒が彼等と接する機会も

高Ⅱ生の交流の機会が多す

りもした。ただ、余りにも といっしょに遊びに行った 満宮の縁日に、

洛星の生徒

用された。25日には北野天

ムルーム等色々な時間が活

文化祭期間中だったので

拍手を送っていた。 あったが、生徒は皆暖かい いとはいえない日本語では あいさつした。決してうま

る為 源次 な ました。また、 の一部によって迫害され、

経営する学校で、

うか、彼らと一生を共にす 中学、高校の社会科の免許 出来ました。一方、教育改 ました。しかし摂理でしょ 生徒を相手に働く事が出 満州ではヴィアトール会の たので、満州に行きました。 中国人の

たが、これは反発する人が 少なく、私もその 教会がすべて閉鎖されま

体

加

矢われる事を力説致しま るなら

洛星の

教育の根幹

た。その理由は一八〇〇

れ を 父

> 短調し、この教育が失わ の第一の意向であること

いと思います。

卒業証

あることを忘れてはならな 為に設立されたのが洛星で ていました。それに答える 学問を与える教育を期待し

迫会を創立したケルブ神 育は、ヴィアトール教育

ターを打ったり、 がしました。この様にして 生懸命でした。一年半で修 士課程の終了試験に合格出 夜中の一時までタイプライ に合格した小学生の様な気 来た時は、洛星の入学試験 た。またレポー 図書館で資料を集めて トを書く為 本当に一

声

た 江

からです。このときケル

フ神父は、自らの手で、

青

僚と共に

さ

れた青少年は精神的貧困

Lounda Aniversity
Chrayo
AD MANUMAN DER GEOMESE

From the state of the

洛ち入り、人生の道に迷っ

7

すが、物質中心で教育

30 DEG GENTLENS

The state of the million of the state of the million of the mill

育

が切り離されたときのこ 代フランスに於て宗教教

なりたいと思うようになり から、将来青少年に教育を たからです。この様な環境 育を学ぶ機会に恵まれなかっ 道会に入会することを希望 与えることの出来る人間に れたため中学教育や専門教 したのは、奄美大島で生ま **入島のカトリック教会が軍** 当時の奄美 人だっ の中堅になるからです。 のです。 学致しました。二ヵ年あれ カゴ市にあるロアヨーラ大 とが出来ません。それでシ は正規の教員免許を得るこ ることが出来ました。 立者の一人として京都に来 なぜなら若い人は次の世代 学の教育学部修士課程に入 いこの望みが叶い、 い、これが私の信念です。 し、外国の大神学校卒業で 生若い人と共に生きた 洛星設 しか

のけ

参考にして下されば幸い 中の「思い出の十二期生」

民は、次の世代を担う青少

観に自身を失った多くの国

その間、第一洛星会館(食

当時、宗教教育が問われ

を希望し、時代に遅れない

年に精神的基礎のある教育

した。私は洛星での宗教

ば余裕を持って勉学を楽し 決心で毎日の講義に出席。 来るだけ短期間で卒業する む事が出来るのですが、出 は一九七四年まで続きまし 中心として、 様にして、アラール校長を 堂が建設されました。この と九期生の時代です。十期 が建設されました。八期生 会館(理科教室及び図書館) 堂)、視聴覚教室、第二洛星 長を補佐致しました。これ 生の卒業の時に大講堂と聖

休み中でも大学に行きまし 単位でも多く取るために

となり 洛星の現代の姿が

身

につけることを理念とし

時

代に遅れない一般学問を

生観を与えること、また 年に宗教を通じて正しい

多く、特にホストファミリー 早速たどたどしい英語では 際親善が少しでも促進され あるけれども話が弾み、国 をうけもつ高Ⅱ生を中心に われた。 会話は、もっぱら英語で行 気さくで違和感なく洛星の 雰囲気にとけこめたと思う。 は、私が知る限り、かなり 好奇心旺盛な留学 留学生の人柄

べただろう。 P 少しは日本の文化を学

行ってどう思ったかを話し

ていて、休みの日にどこへ

代表のクリストファー君が ラバディ校長の紹介の後、 声がますます大きくなる。

「日本に来れてうれしい。

二週間どうぞよろしく。」と

交流を深めるために、ホー

授業には出ないものの、

流される。次々にブルー

オーストラリアの国歌が

大講堂に入場してきた。 制服に身を包んだ高校生が

歓

チを教室ですることになっ

学校に来る日には毎朝スピー 業には余り出なかったが、 分けられた。原則として授 生は高Ⅱの各クラスに振り

始めた。

が終わり、照明が消えると

たような気がした。

文化祭が終わると、

留学

ら2週間という短い期間で

B

た。

大幅なコーナー改革も検討

しています。洛星新聞の今

思う。そのためか、開会式

あちこちから歓声が上がり

半の生徒の気持ちだったと に会ってみたい。これが大 うだが、とにかく早く実際

前日に名古屋に着いたそ

も知れない。 ぎて、他学年の きなかったのか 人は余り話がで

からも、彼らに惜しみな

m競走で力走し、応援

てもらった日本語とその英 訳がつまっていた。これな 生もいて手帳の中は、 な だ あ 買いたらないというなか る留学生はおみやげに、 奈良や大阪・神戸を見学 かの好奇心を見せるもの 車の人形や刀を買い、ま 国の日が近づいてきた。 せいか、あっという間に て、学校に来ない日が多 エールが送られた。

生は名残惜しそうに名古 さた。大講堂に生徒を集 10月6日、帰国の日がやっ に向けて出発、全日程は 送別会が行われた。留

親 た な2週間だったが、日豪の と言ってもいいだろう。 今回の留学生を受け入れ 末を残した 2 週間であっ 音を深めそれだけ大きな にご苦労様でした。 や先生方にとって大変 週間は、ホストファミ

参加した。 学年別リレー 体育祭にも彼らは積極的 g\$g\$g\$g\$g\$g\$g\$g\$g\$g\$g\$g\$ 次号予告

行予定)は、10月末に校内 利に関する条約」特集や、 できなかった「子どもの権 今号では紙面の都合上掲載 して書いて頂いた、前期活 の全クラブ・同好会に依頼 な内容を予定しています。 東大寺学園訪問など、豊富 動状況・結果報告を中心に、 局員の出席率もよくなり、 次号第13号(1月下旬発

後にご期待下さい。

顧 問 M2A北川浩司 M3C小森茂明 HIA林 良範 HIA高橋正樹 HIB笠井暁生 HIA 丹羽 藤田行男先生 明

久保弘雄先生

スタッフ

局編集長 HIF大森崇利